

令和 7 年 6 月 9 日

見附市議会議員 様

見附市議会議員 佐野 勇

一 般 質 問 通 告 書

下記のとおり質問したいので、会議規則第 6 1 条第 2 項の規定により通告します。

質問事項 (主題を記載してください。議場配布の一覧表に印刷)

【 1 】 第 6 次見附市総合計画に向けた農業政策について

答弁を求める者 市長

第 5 次見附市総合計画と共に、見附市に農林創生課ができ早 10 年が経過しました。「10 年一昔」ということわざがあります。わずか 10 年という期間でも、振り返ればいろいろなことがありました。当時の農政事情も厳しい環境であったものの、少しの蓄えを切り崩し、何とか農地を守ってきた状況であったが、農業従事者の高齢化が進み担い手も育っていない現状はさらに厳しいものになっています。2023 年は極端な異常気象により米の生産量が大幅に低下しました。この結果、米の供給が不足し、米価が上昇し家計を圧迫している現状から、2025 年には店頭価格を下げるために備蓄米の放出がされました。また、減反政策の影響も無視できません。この政策により、米の作付面積が制限されており、さらに生産量の減少に拍車をかけています。このような状況下で、持続可能な農業への転換が求められる中では、政府や JA の支援も重要ですが、自治体でできることは何か。第 5 次見附市総合計画を振り返るとともに、第 6 次見附市総合計画に向けた見附市の取り組みをお伺いします。

- 1 6 月 3 日に、令和 7 年度見附市まちづくり総合会議審議会委員名簿が事務局より提示されましたが、行政職以外 18 名の委員で構成されている。農業関係者では 1 名、見附市農業者会議会長が選任されています。18 名の枠は決まっているのですか。お伺いします。

※ 番号のつけ方 (大項目) 1 2 3 (中項目) (1) (2) (3) (小項目) アイウ



- 2 既に、5月28日に審議会があったとのことですが、今後の審議会スケジュールをお伺いします。
- 3 第5次見附市総合計画は、市の最上位計画に位置づけられています。中でも「農林業政策」は、生活に直結することから、時々課題に敏感に対応する必要があります。異常気象や災害対応では苦慮された事と思いますが、反省点がありましたらお伺いします。また、主要施策の「がんばる農林業者に対する育成支援に取り組みます」の主要事業である4つの事業について、それぞれの成果と課題についてお伺いします。
- 4 次に、農地集約と大規模化について、進捗状況と成果と課題、これから方向性についてお伺いします。
- 5 米の市場価格が全国平均で4,250円/5kgと高騰しています。見附市でも学校給食米が作られていますが、学校給食用としての仕入れ価格の影響についてお伺いします。
- 6 令和7年7月に予定されている産業厚生委員会の行政視察に関して、事前学習会（5月26日）が行われました。地産地消の取り組みの中で供給ルートのショートカットにより新ルートという形で令和元年よりスタートし、農業者の所得拡大を図ることの説明がありました。それによると、精米業者（株）諸長を介して、農家から直接給食センターに納入されるということになり流通コストの削減効果が期待できます。このルート導入による成果と課題をお伺いします。
- 7 このシステムでは、市内の8小学校区ごとに優れた業者・団体を選定す

※ 番号のつけ方 (大項目) 1 2 3 (中項目) (1) (2) (3) (小項目) アイウ

るとあるが、中小個人農家は参加できないのか、課題があればお伺いします。

8 学校給食米「小学校米」の一般販売が令和6年度11.7トンとかなり増えているが、生産農家は選定農業法人・団体に限られるのか。品種は何か。また、栽培方法と今後の拡大見通しをあわせてお伺いします。

9 農業者の所得拡大について考えると、販路を拡大し高く売る事や、主食米の生産量を増やすことが必要であって、令和6年度は特に、JAに米が集まらない状態でした。また、令和5年度より全農による生産者からの直接買取方式から、従来の主食用米・水田活用米穀の出荷契約書によるJAへの売り渡し委託方式に変更されています。簡単に言うと、農業者は、米の集荷契約書に基づき米出荷時に仮渡し金を受け取り、翌年の5月精算金として2回目が支払われ、その後本精算となり、すべて完了するまでに3から4回位係ることとなります。その結果がJAに米が集まらず、民間に米が流れ消費価格が上がる原因と考えられます。「農政改革」は政府の仕事と考えれば、自治体の仕事ではないとも言えますが、放っておけば10年後は日本から米農家がなくなるとも言われています。地産地消の取り組みや、流通改革による農業者の収入を増やすこと等は、見附市でやるべきと考えることから市長の見解をお伺いします。

10 令和6年夏頃、コメ不足感が市場に広がり、米騒動が起きました。新米が出回れば価格も安定し、品薄感も無くなるとの見解もありましたが令和7年になっても米価格は高止まりです。政府は備蓄米、主食米の生産量の調整などいろいろ手を打っていますが、その結果はいまだに農家には示されていません。仮に栽培面積を拡大するといっても、見附市では農地面積が小さいうえ、農家も担い手不足で余力がありません。解決策と第6次見附市総合計画の策定に向け、市長の意気込みをお伺いします。